

2019年3月期

第1四半期決算説明会資料



2018年8月2日

ヤマハ株式会社

決算発表のポイント

決算概要

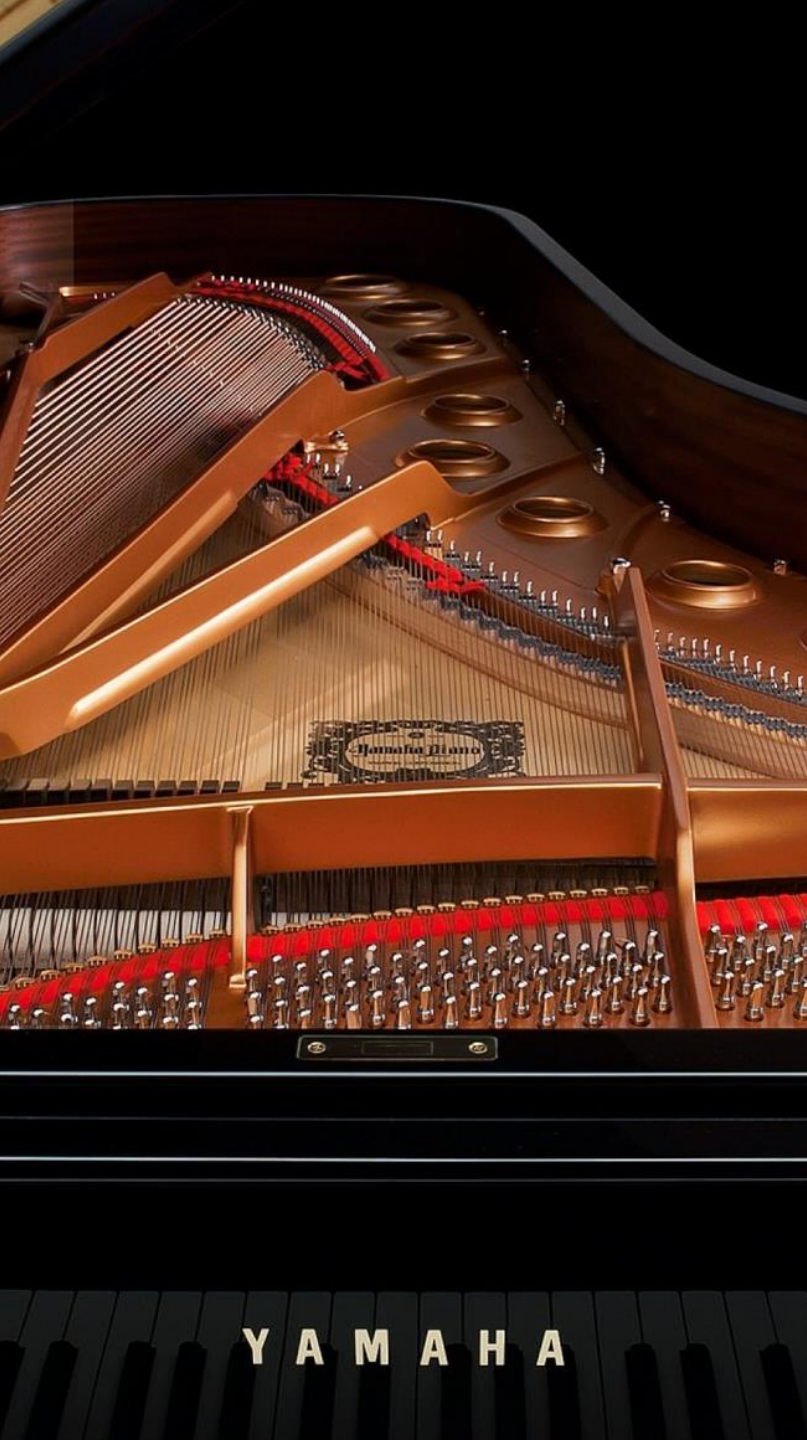
<19/3月期 1Q実績>

() 数値は前年同期との対比

- ・ 対前年同期、増収増益。通期計画に沿って順調に進捗
- ・ 売上高は、楽器事業、その他の事業が堅調に推移(+3.8%)
- ・ 営業利益133億円(+14.6%)、営業利益率12.6%(+1.2P)を達成

<19/3月期 通期予想>

- ・ 前回(2018年5月発表)の業績予想を据え置き
(売上高4,420億円、営業利益550億円、営業利益率12.4%)
- ・ 2Q以降の為替前提は、US\$ 105円、ユーロ 125円にて変更なし



1. 決算概要

業績概要

(億円)

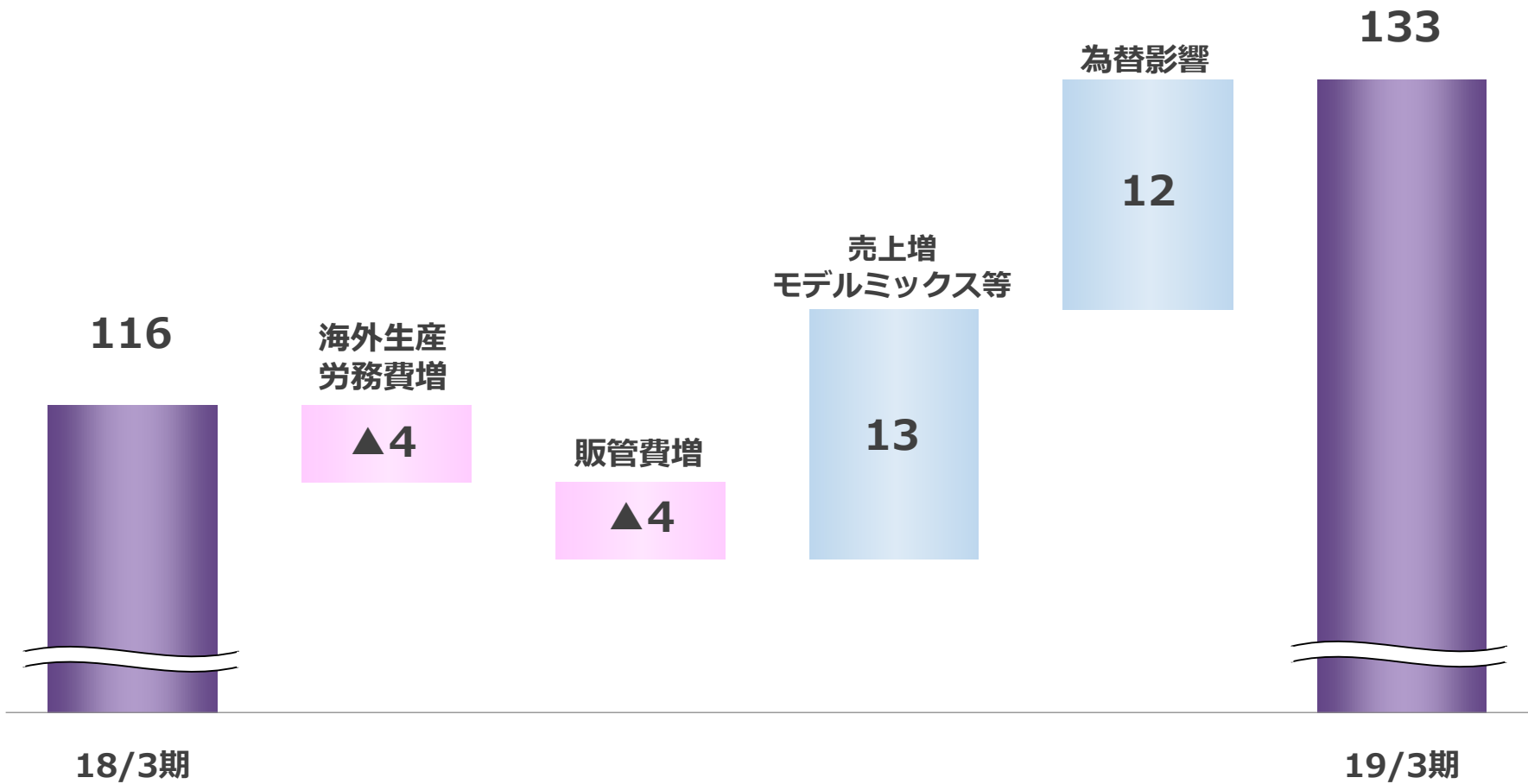
		18/3	19/3	前期比	
売上高		1,012	1,051	+39	+3.8% ^{*2}
営業利益 (営業利益率)		116 (11.4%)	133 (12.6%)	+17	+14.6%
経常利益		112	135	+23	+20.6%
当期利益 ^{*1}		93	94	+1	+0.6%
為替レート (円)					^{*2} +2.6% (為替影響除く)
売上高 (期中平均)	US\$	111	109		
	EUR	122	130		
利益 (決済レート)	US\$	111	108		
	EUR	121	132		

*1 連結財務諸表上は「親会社株主に帰属する四半期（当期）純利益」

営業利益増減要因

前期との比較

(億円)



事業別業績

(億円)

		18/3	19/3	前期比	為替影響
楽器事業	売上高	656	691	+35	+9
	営業利益	83	102	+19	+8
	営業利益率	12.6%	14.8%	+2.2P	
音響機器事業	売上高	265	262	▲3	+3
	営業利益	19	16	▲4	+4
	営業利益率	7.3%	6.0%	▲1.3P	
その他の事業	売上高	92	99	+7	▲1
	営業利益	14	15	+1	0
	営業利益率	15.2%	15.2%	0P	

* 新規事業開発費用の負担の見直しによる営業利益影響額・・・楽器事業 +2億円、音響機器事業 ▲2億円

通期業績予想

*通期予想は前回（2018年5月発表）から変更なし

(億円)

	18/3	19/3予想	前期比	
売上高	4,330	4,420	+90	+2.1% ^{*2}
営業利益 (営業利益率)	488 (11.3%)	550 (12.4%)	+62	+12.6%
経常利益	492	550	+58	+11.7%
当期利益 ^{*1}	544	400	▲144	▲26.4%
為替レート (円)				^{*2} +4.3% (為替影響除く)
売上高 (期中平均)	US\$	111	105	
	EUR	130	125	
利益 (決済レート)	US\$	111	105	
	EUR	126	125	

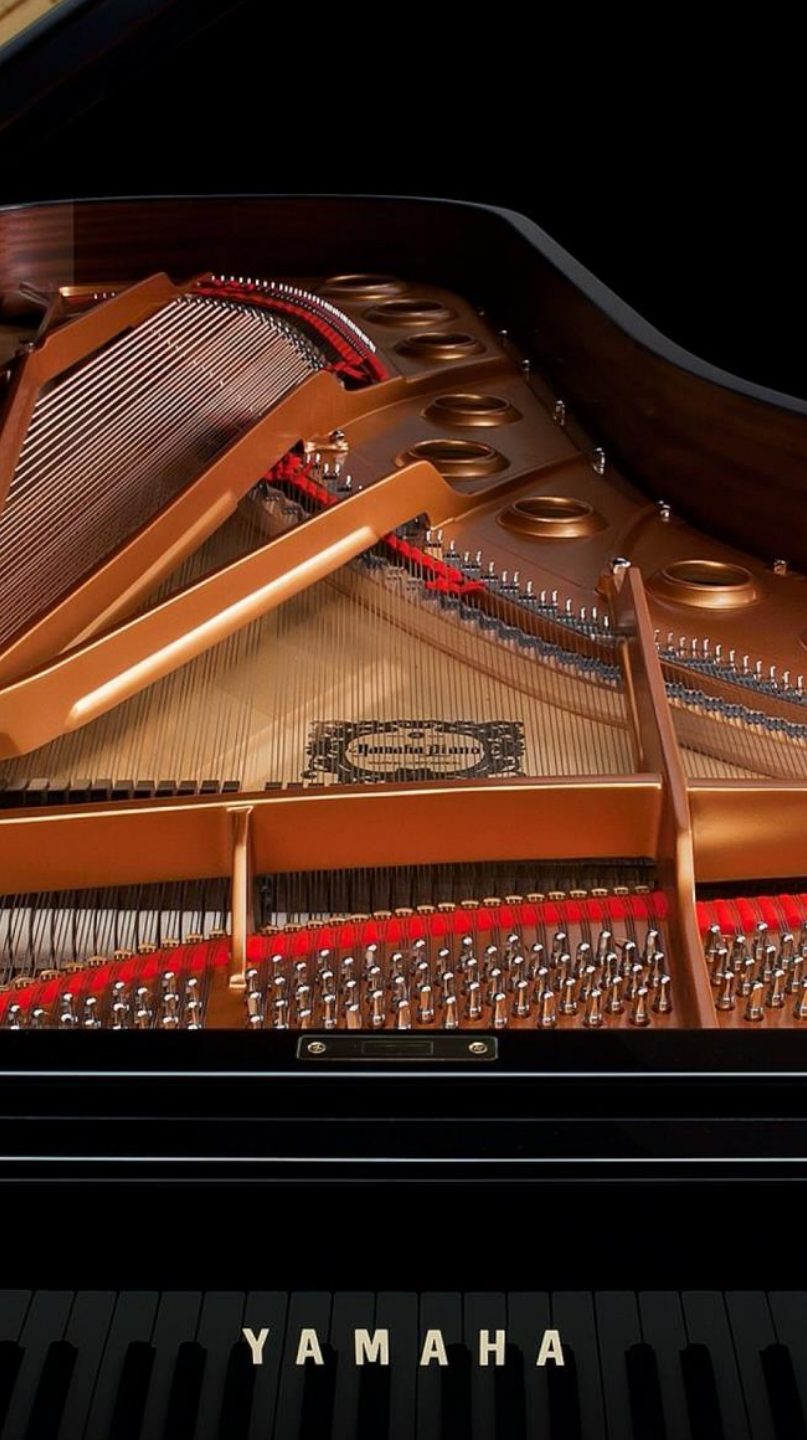
*1 連結財務諸表上は「親会社株主に帰属する四半期（当期）純利益」

事業別通期業績予想

*通期予想は前回（2018年5月発表）から変更なし

(億円)

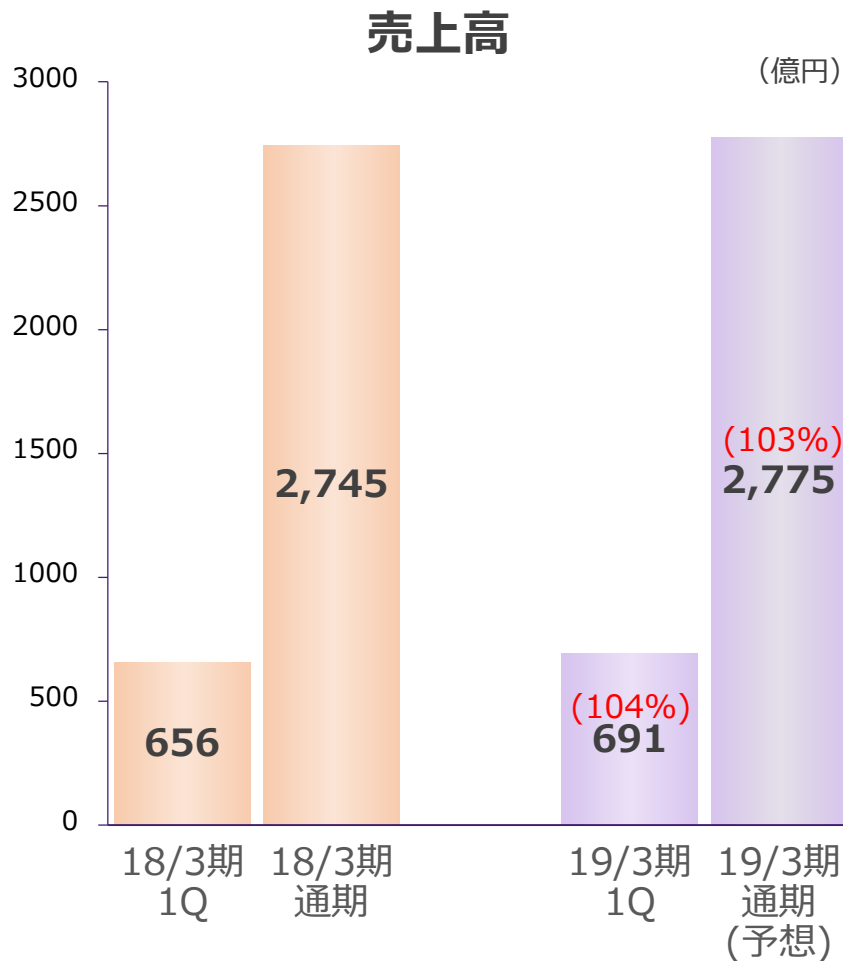
		18/3	19/3予想	前期比
楽器事業	売上高	2,745	2,775	+30
	営業利益	346	395	+49
	営業利益率	12.6%	14.2%	+1.6P
音響機器事業	売上高	1,218	1,255	+37
	営業利益	107	120	+13
	営業利益率	8.8%	9.6%	+0.8P
その他の事業	売上高	367	390	+23
	営業利益	35	35	0
	営業利益率	9.5%	9.0%	▲0.5P



2. 事業別概要

売上・営業利益

*通期予想は前回（2018年5月発表）から変更なし

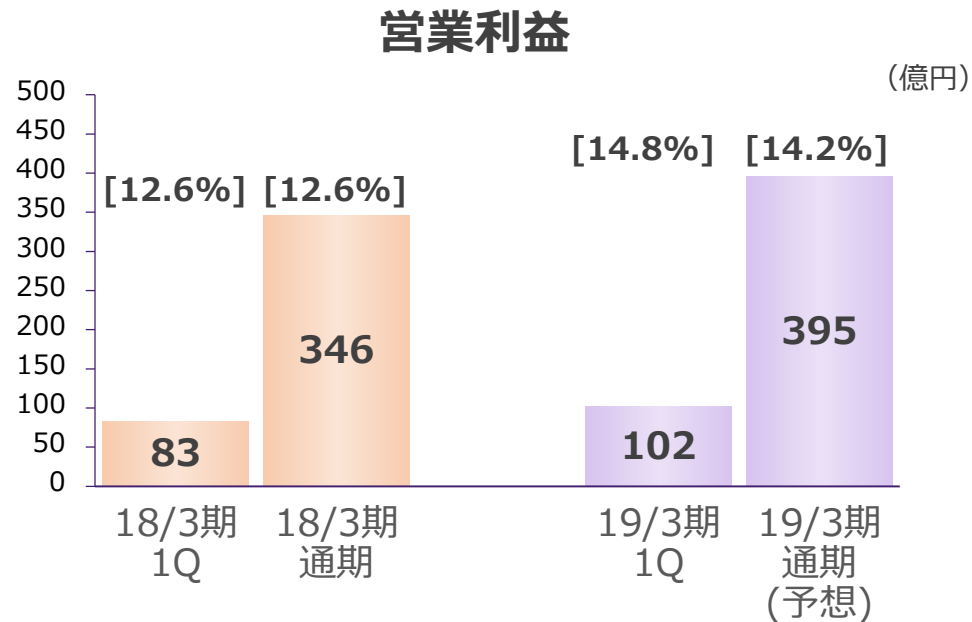


[1Q状況] 全商品カテゴリーで前年を上回る

- ・ギター、ポータブルキーボードが2桁成長、デジタルピアノは新商品により好調
- ・北米市場は復調続き好調、中国市場は2桁成長継続、新興国も堅調さ続く

[通期見込] 全商品カテゴリーで前年を上回る成長を予想

- ・ギター、ピアノ、電子楽器が堅調に伸長
- ・中国市場は2桁成長継続、新興国は堅調継続



()内は為替を除いた実質ベースでの前期比増減

[]内は営業利益率

主要商品 売上状況

*通期予想は前回（2018年5月発表）から変更なし

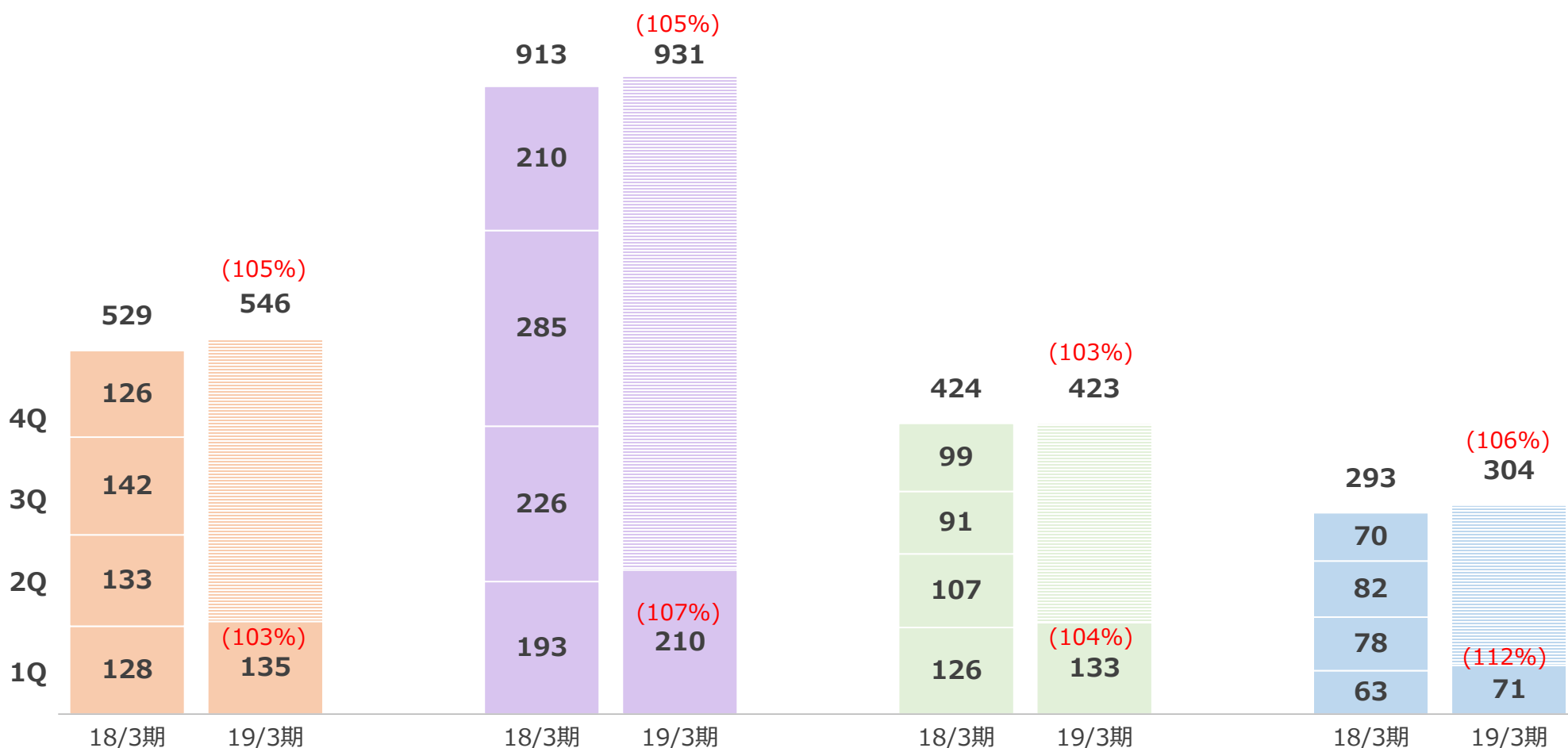
ピアノ

電子楽器

管楽器

弦打楽器

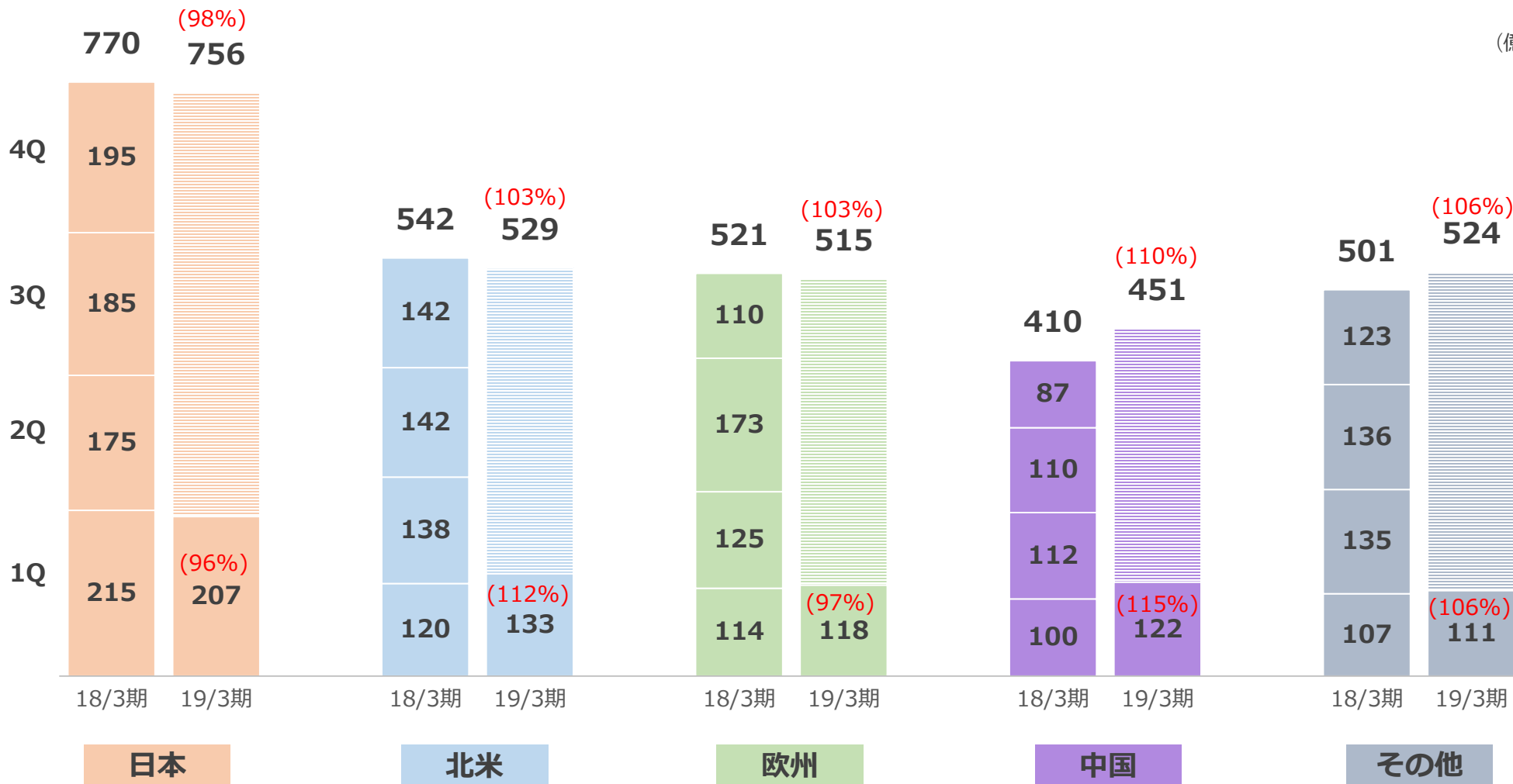
(億円)



地域別販売状況

*通期予想は前回（2018年5月発表）から変更なし

(億円)



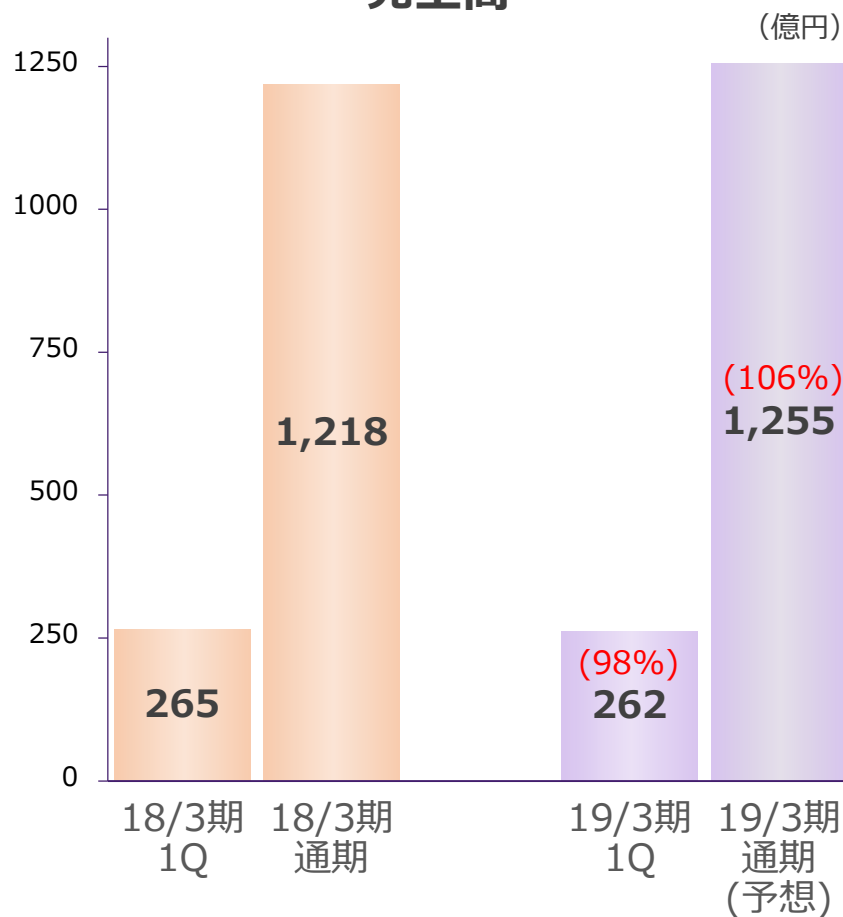
※ソフト、音楽教室等を含む

()内は為替を除いた実質ベースでの前期比増減

売上・営業利益

*通期予想は前回（2018年5月発表）から変更なし

売上高



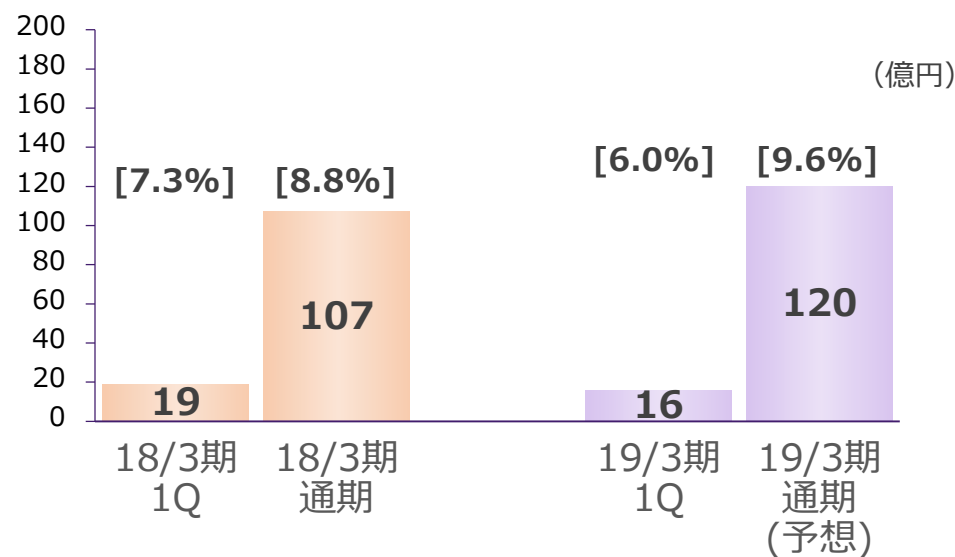
[1Q状況] PAは伸長するも音響事業全体では前年下回る

- PAは、業務用音響機器、音楽制作が堅調に推移
- AVは、主力AVレシーバーの需要変化、新旧商品の端境期影響、米国での大手量販向け失注により前年を下回る
- ICTは、中国でのOEM減、SN製品の期ずれにより前年下回る

[通期見込] 前年を大きく上回る成長を予想

- PAは新商品効果、北米設備市場と設備工事増により2桁成長
- AVは、欧州でのMusicCast拡大、中国・新興国で成長
- ICTは、ルーター、LAN製品が拡大

営業利益



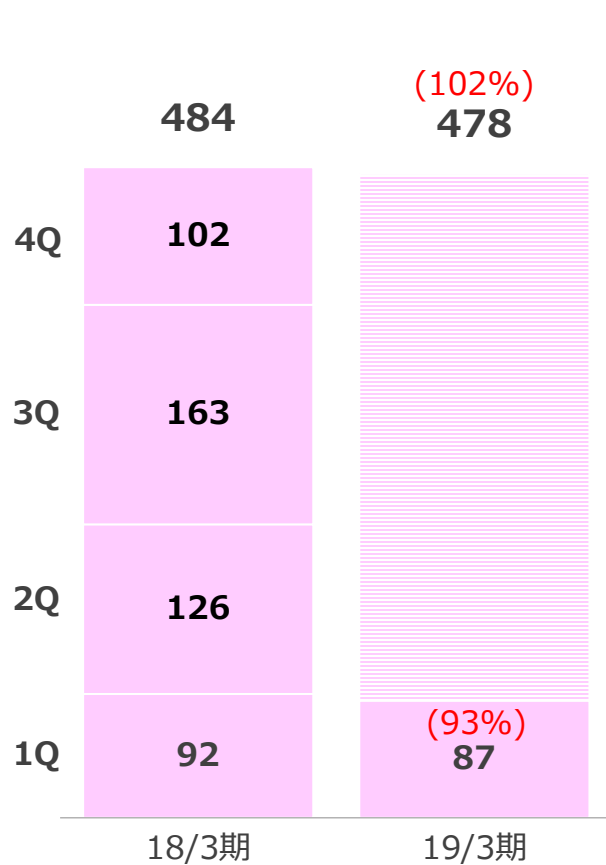
()内は為替を除いた実質ベースでの前期比増減

[]内は営業利益率

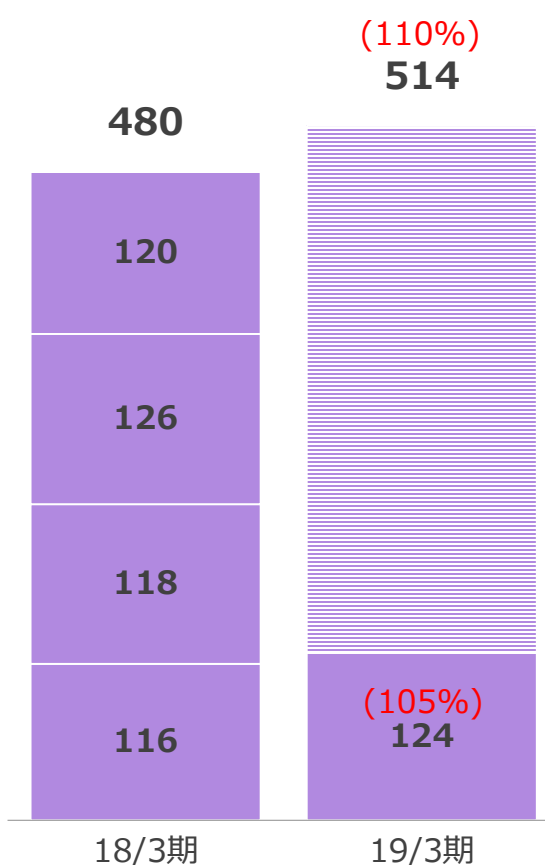
主要商品 売上状況

*通期予想は前回（2018年5月発表）から変更なし

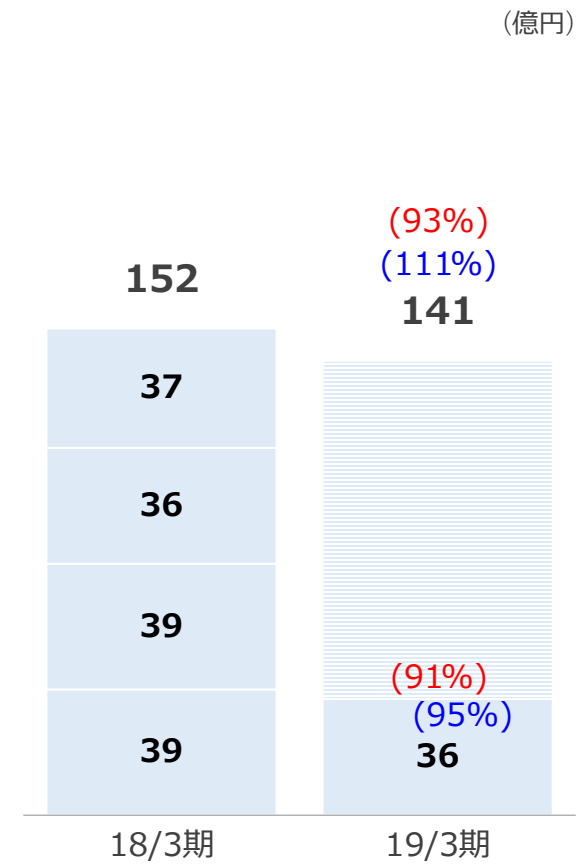
AV機器



PA機器



ICT機器



(億円)

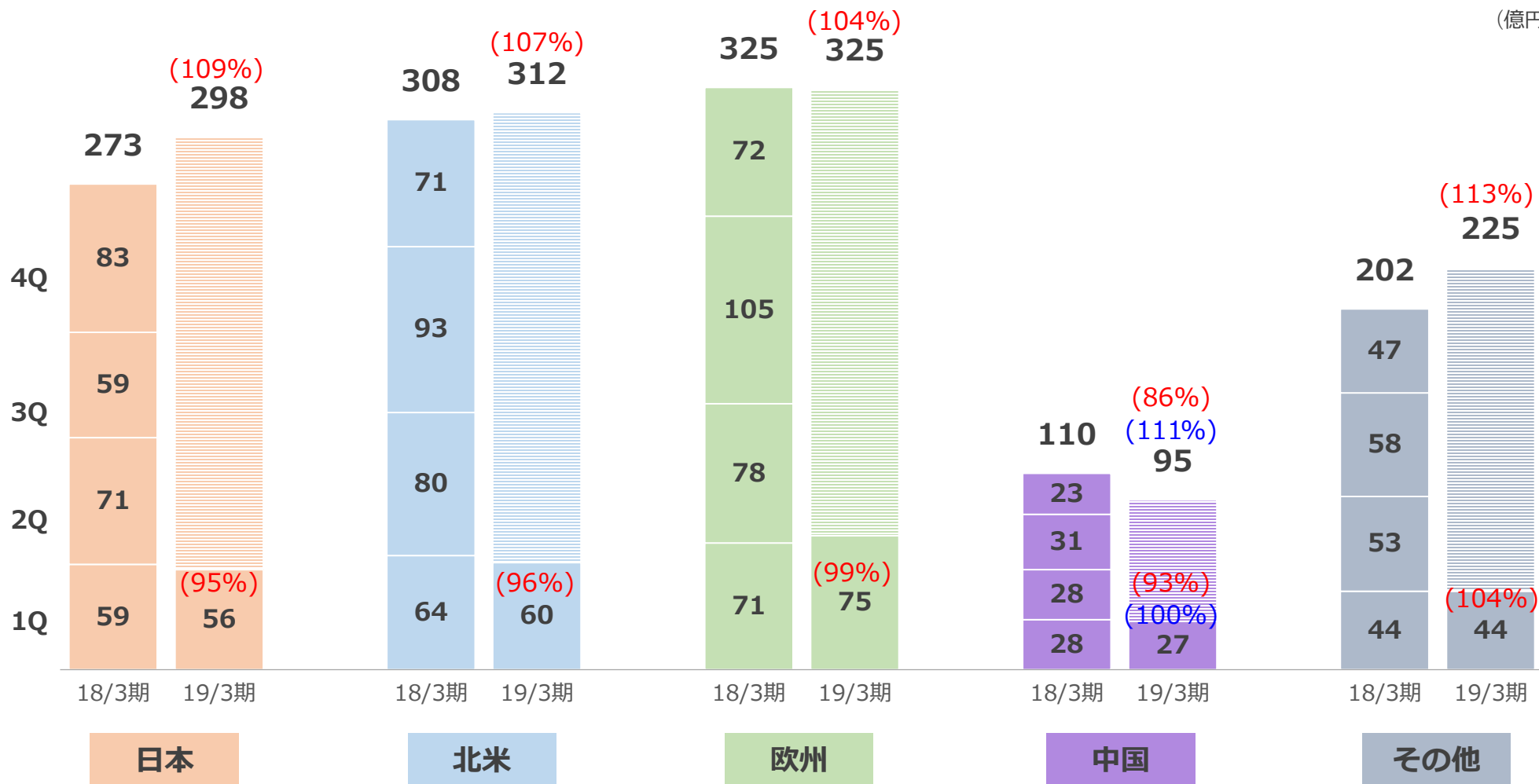
※PA機器はハード売上のみ（設備工事を除く）

()内は為替を除いた実質ベースでの前期比増減
 ()内はOEM向けを除いた前期比増減

地域別販売状況

*通期予想は前回（2018年5月発表）から変更なし

(億円)

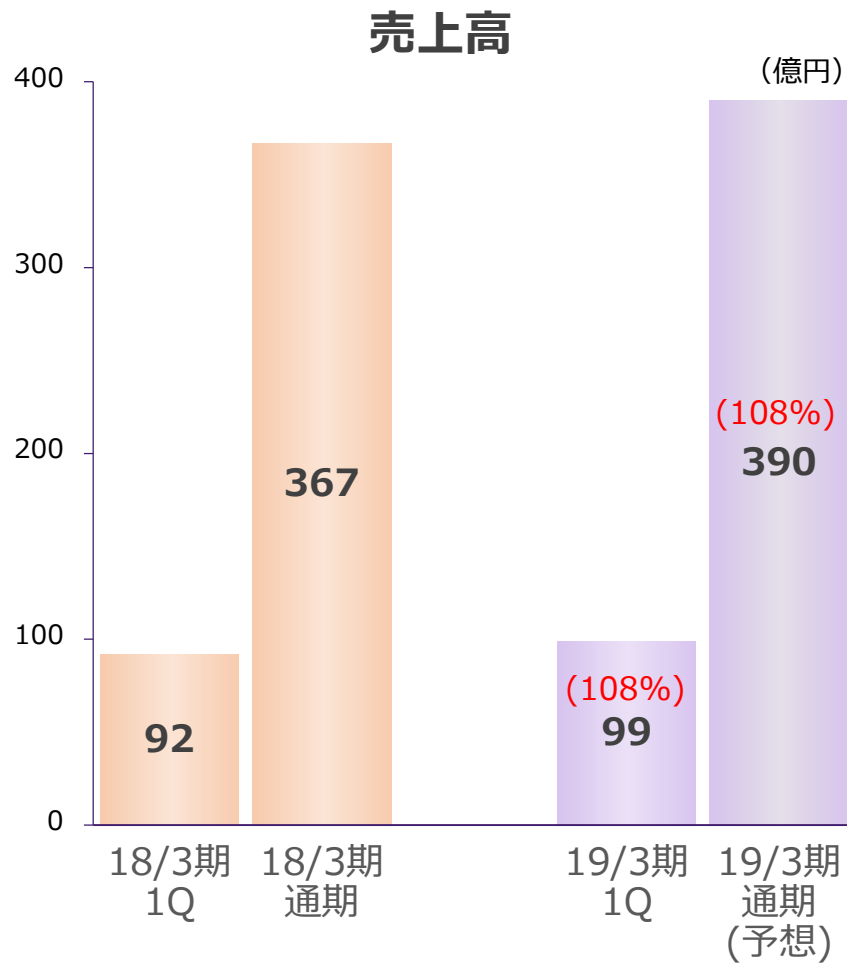


()内は為替を除いた実質ベースでの前期比増減

()内はOEM向けを除いた前期比増減

売上・営業利益

*通期予想は前回（2018年5月発表）から変更なし

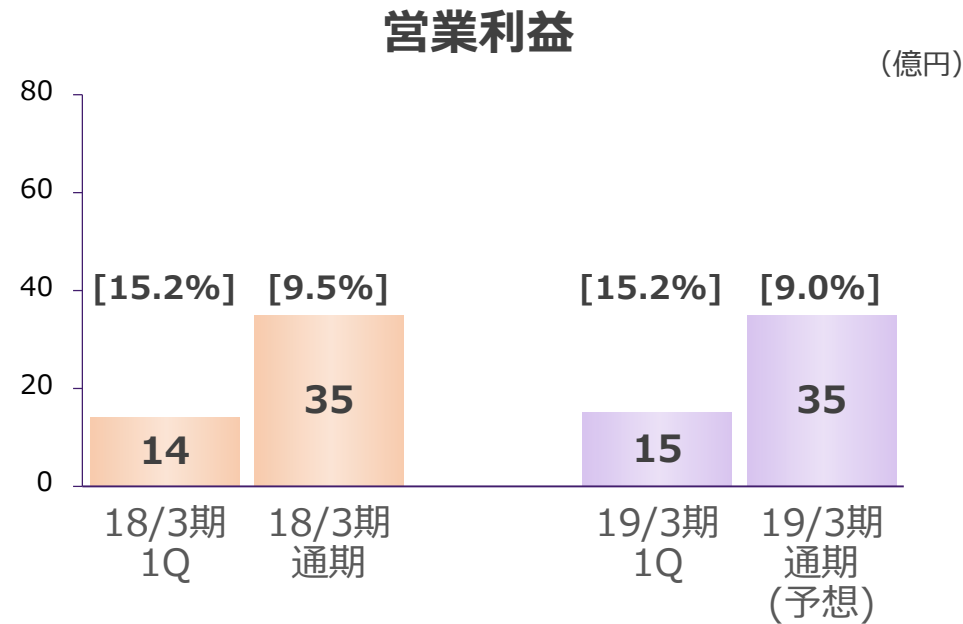


[1Q状況]

・FA機器は先期からの好受注により好調、カーパーツは供給先拡大により堅調継続

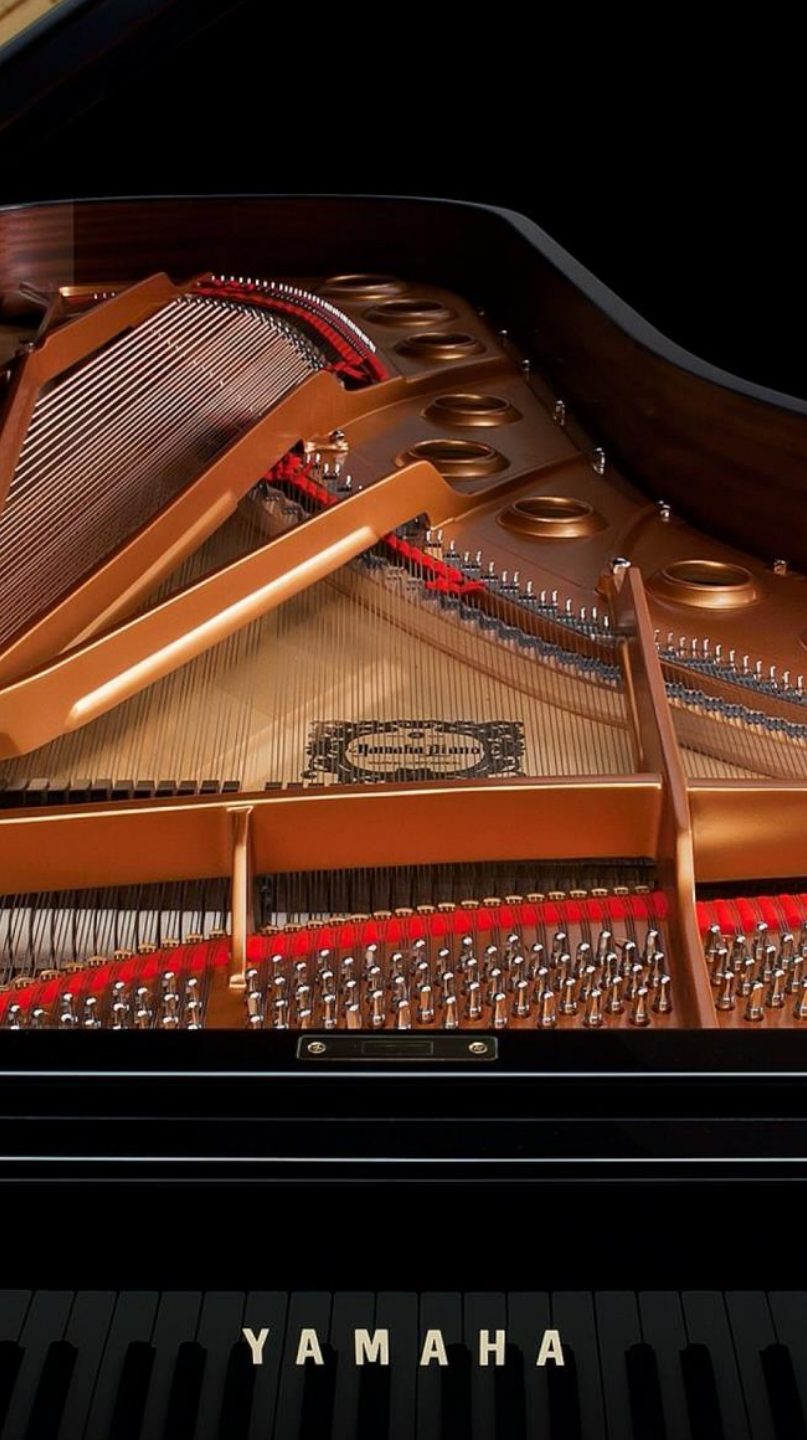
[通期見込]

・車載通話モジュール等の伸長で電子デバイスは2桁成長を予想



()内は為替を除いた実質ベースでの前期比増減

[]内は営業利益率



3. その他財務数値

貸借対照表

*通期予想は前回（2018年5月発表）から変更なし

(億円)

	18/3 1Q末	19/3 1Q末	増減	18/3末	19/3末 (予想)	増減
現金預金	1,027	1,125	+98	1,227	1,199	▲28
売上債権	510	536	+26	553	585	+32
棚卸資産	1,001	993	▲8	941	910	▲31
他流動資産	150	157	+7	174	183	+9
固定資産	2,639	2,508	▲131	2,628	2,757	+129
資産計	5,327	5,319	▲8	5,523	5,634	+111
仕入債務	189	207	+18	199	204	+5
借入金	180	154	▲26	111	99	▲12
他負債	1,143	1,108	▲35	1,330	1,168	▲162
純資産計	3,815	3,850	+35	3,883	4,163	+280
負債純資産計	5,327	5,319	▲8	5,523	5,634	+111

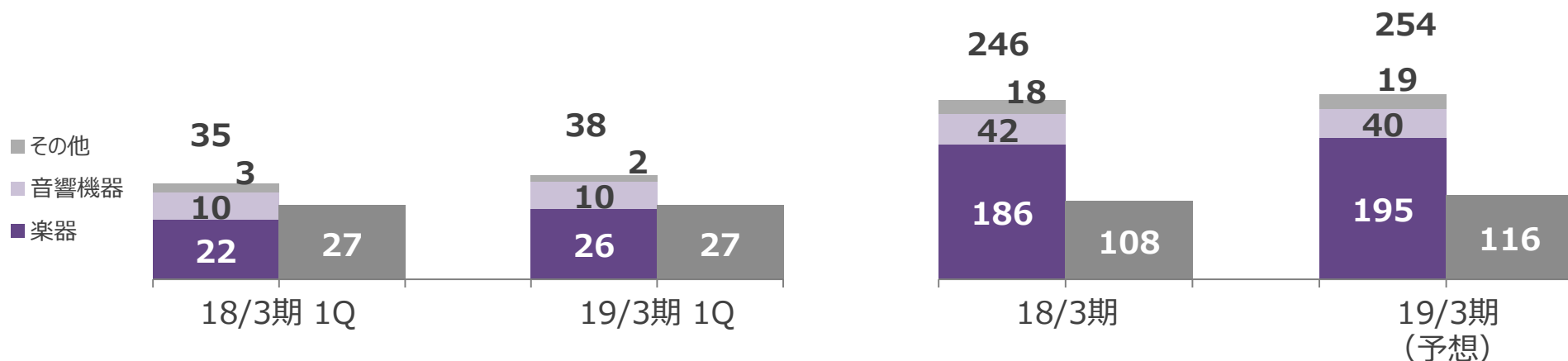
* 税効果会計に係る会計基準の改定に伴い、前期数値は組み替え

設備投資額・減価償却費/研究開発費

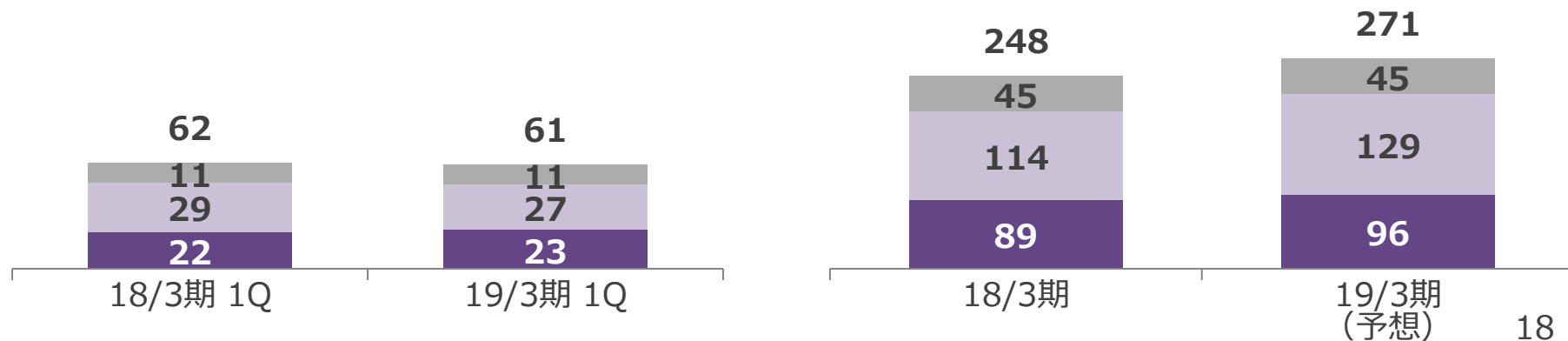
*通期予想は前回（2018年5月発表）から変更なし

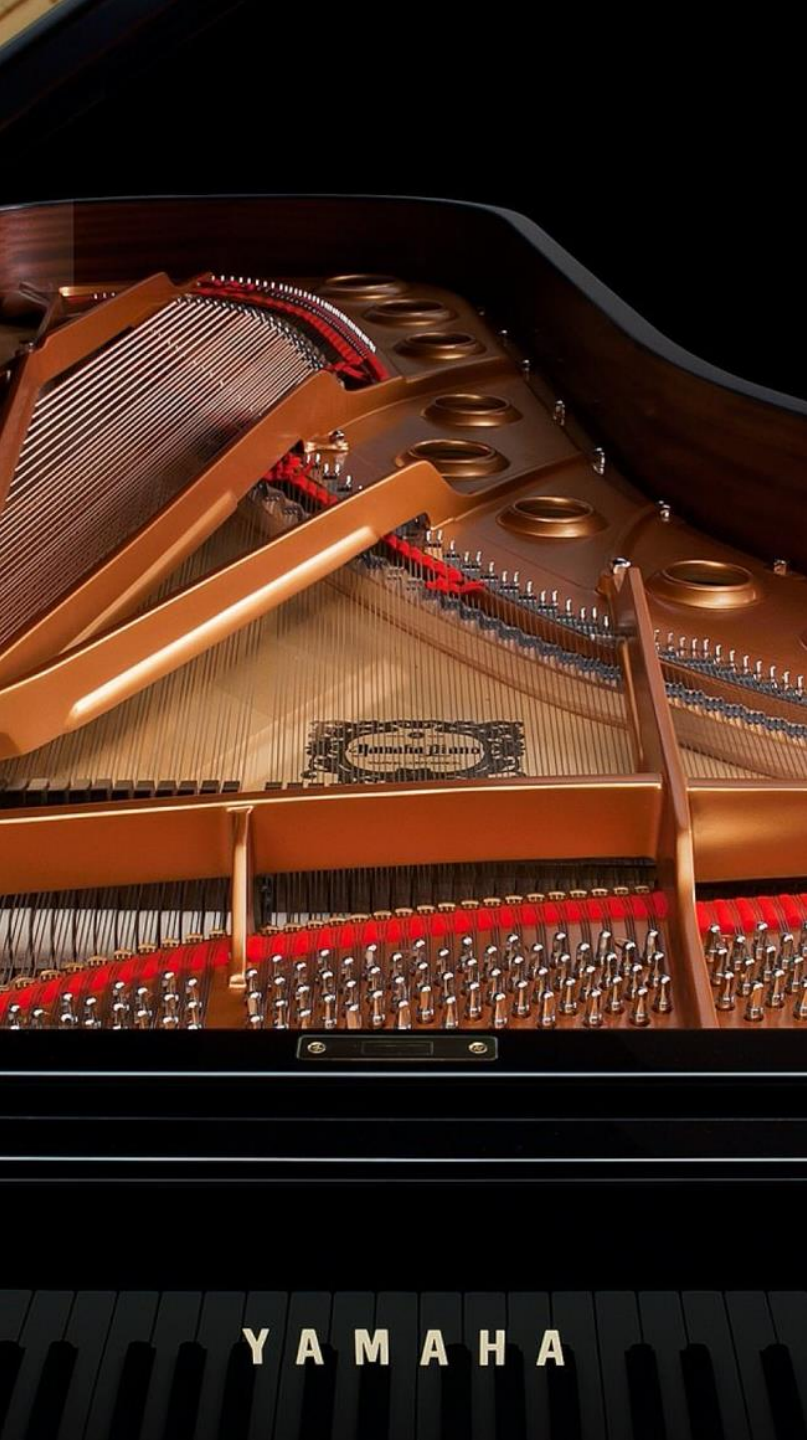
設備投資額（減価償却費）

(億円)



研究開発費





付属資料

1Q 営業外損益、特別損益

(億円)

		18/3 1Q	19/3 1Q
営業外損益	金融収支	4	4
	その他	▲8	▲2
	計	▲4	2
特別損益	固定資産処分損益	0	0
	その他	▲2	1
	計	▲2	1
法人税他	法人税等	21	32
	法人税等調整額	▲5	11
	少数株主利益	1	0
	計	17	43

通期 営業外損益、特別損益

*通期予想は前回（2018年5月発表）から変更なし

(億円)

		18/3	19/3 (予想)
営業外損益	金融収支	43	35
	その他	▲39	▲35
	計	4	0
特別損益	固定資産 処分損益	▲2 <small>ヤマハ発動機株式売却益 +258</small>	0
	その他	255	0
	計	252	0
法人税他	法人税等	214	137
	法人税等 調整額	▲13	12
	少数株主利益	0	1
	計	201	150

この資料の中で、将来の見通しに関する数値につきましては、ヤマハ及びヤマハグループ各社の現時点での入手可能な情報に基いており、この中にはリスクや不確定な要因も含まれております。

従いまして、実際の業績は、事業を取り巻く経済環境、需要動向、米ドル、ユーロを中心とする為替動向等により、これらの業績見通しと大きく異なる可能性があります。